

令和3年2月 岩手県教育委員会定例会 会議録

- 1 開催日時
開会 令和3年2月15日(月)午後1時30分
閉会 令和3年2月15日(月)午後2時20分
- 2 開催場所
県庁10階 教育委員室
- 3 教育長及び出席委員
佐藤 博 教育長
小平 忠孝 委員
畠山 将樹 委員
新妻 二男 委員
宇部 容子 委員
小野寺 明美 委員
- 4 説明等のため出席した職員
佐藤教育局長、梅津教育次長
渡辺教育企画推進監、木村学校調整課総括課長、森田高校改革課長、藤原生涯学習文化財課総括課長
教育企画室：菊池主任主査、長内主事(記録)
- 5 会議の概要
 - 第1 会期決定の件
本日一日と決定
 - 第2 議案第32号 岩手県立美術館協議会委員の任命及び解任に関し議決を求めることについて(生涯学習文化財課)
別添議案により説明

原案どおり決定
 - 第3 事務報告1 高校再編後期計画(最終案)に係る岩手県教育振興基本対策審議会等の意見について(学校調整課)
別添事務報告により説明

新妻委員：盛岡南高校と不来方高校の統合新設校について、学区制との関係はどのようになるのか今の考えを教えてください。

また、この新設校について、具体的には統合検討委員会が設置されて検討されるとのことですが、最終ページにある学びの姿なども協議の対象となるのですか。

森田高校改革課長：まず、学区でございますが、現行におきましては、盛岡南高校の体育科、普通科体育コースと不来方高校の芸術・外国語・体育学系については、他の専門高校と同様に全県1学区、盛岡南高校の普通科と不来方高校の人文・理数学系は、盛岡ブロックの学区になっております。基本的には、これを踏襲する形での検討になると思っておりますが、詳細については、さらに検討させていただきたいと思っております。

それから、基本方針の統合検討委員会での取扱いでございますが、これは、高校教育を取り巻く現状を踏まえ今後必要となるものとして、文部科学省が示している方針に沿いまして、構想を示させていただいたものでございます。

統合検討委員会の中におきましても、こういったものを示しながら、これありきではなく、様々な視点でご意見を頂戴してまいりたいと思っております。

新妻委員：簡単に言えば、検討のベースとして捉えればいいということですね。

森田高校改革課長：そのとおりでございます。

畠山委員：教育振興基本対策審議会では異論が出なかったと資料にありますが、いわて産業人材育成会議では異論などは出ませんでしたか。

森田高校改革課長：いわて産業人材育成会議でも異論はなく、どちらかというところ期待の声が出されたところですよ。

畠山委員：これまでも、この発展的な統合の魅力について理解をしていただけるように努めてきていると思うのですが、先日の市町村教育委員会との意見交換の際も改めて思ったのですが、魅力の点をさらに説明して理解を求めることがさらに必要だと感じました。引き続き、この点はよろしくお願ひいたしたいと思います。

森田高校改革課長：2月18日に盛岡ブロックの統合に関する説明会を開催し、ただいまお示しした私どもの考えを説明させていただきます。また、その他のブロックにおきましても、統合まで4～5年の時間を置いて進めることにしておりますので、学校の関係者、地域の代表者等で構成される検討委員会なども立ち上げて、学校に関する様々なご意見や思いを伺いながら進めてまいりたいと思います。

宇部委員：県民計画で、岩手の将来を生きる子どもたちに、変容する社会に適応する力やそういった社会を創造する力というものを示していて、そのことに加えて、高校の再編は地元の方々や子どもたちにとって大きな課題だったわけですが、今回、統合新設校の学びの姿のイメージを示していただきました。

地域のまちづくりを考えると、どの地域にも学校があるのが望ましいことなのですが、予算や人口減など様々な制約の中で計画案をまとめるのは本当に難しいことだと思います。これまで何度も説明会を開いていますが、今後もそういった説明会があるということでしたし、検討委員会の中で出された案も取り入れながら進めるということでしたので、このようなイメージの学校ですということをぜひ丁寧に示していただいて説明をするということをお願いしたいと思います。

森田高校改革課長：これまで数年間かけながら再編案を検討させていただきましたが、学校の統合というのは、地域にとって近隣に学校がなくなるということになりますし、その学校の卒業生や関係者の方々の思いが非常に強いことは、これまでの説明会や意見交換会の場で強く感じたところです。

一方で、子どもたちの数が減少していく現状の中では、このまま学校を残すとそれぞれの学校が小さくなってしまって学校活動がままならなくなってしまふ、今の高校生と同じように充実した高校生活を送ることができなくなるのではないかという危機感もございます。これからの将来を担う子どもたちが、いかに高校生活を充実させて卒業することができるかが一番だと思いますので、皆様の思いも当然、理解するところではありますが、そういったところをしっかりとご説明しながら、ご理解いただけるよう取り組んで参りたいと思っております。

小野寺委員：保護者から見ると、統合は何年か先ではありますが、高校受験の大きな選択肢になるわけですよ。高校でどのような学びを身に付けて、将来の姿を見せるということとはとても大事なことだと思いますので、ぜひ、何度も何度も丁寧に、先生方にも保護者にも説明が行き渡るように、しっかりと説明を尽くしていただきたいと思います。

森田高校改革課長：この計画自体は今年度中の策定という方向性で進めているところですが、計画策定後におきましても、統合時に新たに入学する生徒、現在小学校5年生の児童が主な対象になりますが、生徒の皆さんや保護者の方々が迷うことのないよう、理念であるとか、新しい高校の姿をはじめ、統合校の姿や入試の見込みについて、学校の先生も含めて逐一、情報提供しながら進めて参りたいと思います。

新妻委員：ブロックを越えた統合が1つの話題になっていますけれども、例えば1学級校を維持するというのは、地域の発展とか子どもたちの学びを保障することを考えると、そうした方がいいし、そうせざるを得ないのですが、その学校を維持するためには色々な工夫が必要ですし、特に専門高校の場合は、一定の規模を維持しないと、言葉が悪いですがジリ貧になってしまう可能性があって、今が決断をする最後のタイミングなのかもしれないので、思い切って決断するということだと思います。

色々なご意見を聞くと、子どもの数が減ったから統合というイメージで捉えられている動きが大きいのかなと思います。もちろん、大きな要因としては避けられないと思うのですが、地域の1学級校を維持するという観点や、専門高校の専門性を幅広く保障するとすれば、専門高校を1学級校にして、それが本当に学びの保障になるのかという心配もあるわけですよ。その辺りのご理解をもう少

し進めていかなければならないのかなという印象があります。

今、決断しなければならぬ状況だとか、あるいは、そのことによって得られる学びの中身とか、その辺りをもう少しお伝えしてご理解いただくために、この中身はそういうことが練られていますので、伝わるようにしていかないともったいないと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

小平委員：県立高校の再編は、岩手の高校教育を根本から見直す、あるいは課題解決、よりよい高校教育を実現していくという観点で重要です。岩手の将来を担う人材をどう育てるのかという観点からも非常に重要なこの計画ですが、私はよく考えてくれたなと思っています。

全国的な東京一極集中と同じように、盛岡周辺への一極集中が進み地方の高校への入学者が減少していくと、中山間地域や沿岸地域の子どもたちが中等教育を受けるチャンスがなくなってしまう。先日、新聞に投書が載っていたとおり、過去に盛岡市内の高校を一律1学級減としたことがありますが、私は、そんなことをしたら学校の特色がなくなると考えて意見を述べ、最終的に一律の減ではなくなったこともありました。盛岡ブロックの生徒数も減少していくわけですし、今回の計画案は、前期計画と比べても将来に向けて素晴らしい計画案だと思います。

県南地域の工業高校の再編については、普通高校なら1学級でもなんとかなりますが、工業高校や農業高校などは、教員配置や設備関係の面から2～3学級は必要です。近年、県南地域を中心とした自動車産業は岩手県の起爆剤という感じになっていますので、このような案は素晴らしいと思います。

中山間地域を壊すことは簡単だが、再生することは非常に困難という話を県内で聞いたこともあります。そういうことも踏まえた上で、将来を担う岩手の青少年をどう育てていくかという点から考えれば、高校再編は非常に大切な課題だと思います。青森県八戸市の県立学校を大胆に統合する際も、猛烈な反対を受けたそうですが、統合後は「むしろ統合して良かった」という声が多いそうです。このように先を見据えた計画ですので、私は教育委員に就任後初めて高校再編計画案に賛成しました。

最後にお願ひですが、ブロックと学区を混同している教育関係者もいるようですから、これを良い機会として、市町村教育委員会と連携を密にして丁寧に、先生方にも保護者にも、どこに住んでいても分かるように、説明をしてほしいと思います。

会議結果の公表は、教育長に一任することとして議決された。